

令和5年度第2回徳島市立考古資料館協議会抄録

- I 日 時 令和6年3月19日(火) 9:50~11:30
- II 場 所 徳島市立考古資料館 研修室
- III 出席者 協議会 中村会長・須藤副会長・菅原委員・杉本委員・板東委員
教育委員会 岡田課長・井出課長補佐・吉岡管理係長・堤主査・宮城主査・
板東主事
考古資料館 北島館長・倉佐事務長・村田主任学芸員・大栗学芸員

IV 内 容

1 市民憲章唱和

2 あいさつ(岡田課長・中村会長)

3 議題

- (1) 令和5年度 徳島市立考古資料館主要事業概要報告(資料1)
- (2) 令和6年度 徳島市立考古資料館事業計画(案)(資料2)
- (3) その他

V 主なご意見

令和5年度主要事業概要報告及び令和6年度事業計画(案)に関して、各委員より様々なご意見をいただきました。主な内容は次のようなものでした。

(◇=委員のご意見 ◎=考古資料館・社会教育課の回答)

◇ 企画展、特別企画展、資料館講座など、コロナ前に比べれば参加者数は依然として少ないものの、前年度と同じくらいの人数が参加している点を見れば、一定の固定層を獲得していることを伺えます。企画展等の立案時にはある程度来館者層を意識してテーマや構成を設定していると思うのですが、令和5年度の冬季企画展ではどの点を意識しましたか。

◎ 広く市民に見ていただくというのが資料館の基本コンセプトですので、一般の方を念頭に市内出土資料に触れる機会を提供することを考えました。

◇ そのスタンスはもちろん良いとは思いますが、その場合だと固定層以外に訴求する点が弱いとも感じます。今回の企画展「徳島市の考古資料 弥生時代の石器」についてですが、徳島市所蔵の資料展示で点数こそ多いものの、市内出土品に限られ、企画展記念講演会やパネルで言及された近畿などとの関連性については展示に反映されておらず、もの足りなさを感じます。普段市民が目にすることがない徳島市以外の資料をいくつか並べることができれば、展示構成の幅も広がり、徳島市出土資料の特徴などもより判り易く示すことができ、新規客層へのアピールにもつながったのではないのでしょうか。企画展の質的向上や内容の深みが来館者数の増加につながるものだと思います。また、考古資料を前面に出した展示施設は市内では唯一である点を考えると、徳島市のその意味では顔ともいえる施設であり、市民への啓発以外にも負うべき役割があると考えます。

- ◇ 放課後デイサービスを受ける社会福祉団体が最近増えていますが、カリキュラム的な面でどこも悩んでいるようです。そういった話の流れで学童施設の管理の方に、資料館の体験学習についてお話しする機会がありましたが、子供たちの反応は鈍いようで、良い反応は得られませんでした。ただ放課後デイサービスでも知的なハンデがある子供たちには勾玉づくりなどの手作業による作品作りはよい刺激になるようで、お願いしたいとの声もありました。放課後デイサービスなど小・中学校以外でも積極的に出前授業を拡充していただければと思います。
- ◇ 資料館の次期調査研究についてですが、東京国立博物館所蔵の巽山古墳の出土遺物の図化とありますが、巽山古墳の墓室など古墳自体の調査等を行わないのでしょうか。
- ◎ 基本は資料図化ですが、個人的には今年度は無理でも墳丘の測量は行いたいと考えています。
- ◇ 調査研究は指定管理者にとって存在感を示す大切な業務だと思います。その点から見るに図化は行われていない巽山古墳の資料ですが、存在自体は良く知られた資料でもあり、図化だけでは新しい知見を得ることは難しいのではないのでしょうか。また巽山古墳は古墳自体がよくわかっていないため、測量調査など一次資料を集めることで今後の調査の基礎となり、意義深いものになるように感じます。
- ◇ 常設展示図録が出来上がったそうですが、販売価格と売部数を教えてください。
- ◎ 1部800円で1,000部の販売を予定しています。また販売以外に500部を別途用意しており、市内小中学校や県内の図書館、他県の埋蔵文化財、考古学研究関連の機関等への配布を考えています。送付先についての具体的な報告は令和6年度の第1回資料館協議会で行いたいと思います。
- ◇ 労力をかけて作った常設展示図録だと思うので、図録を生かした常設展示解説会などを行ってもよいかもしれませんね。
- ◇ 令和5年度の来館者数についてですが、コロナ禍以前以後の事業別の参加人数の推移はわかりますか。
- ◎ 事業個別の参加者数の詳細な分析はまだですが、コロナ前が12,000人ほどでコロナ後は8,000人とほぼ3分の2程度で、学習会、特に好古楽倶楽部も同様に3分の2程度の人数にとどまっています。
- ◇ 展示室前室に掲示している質問と回答のリーフについてですが、とてもよくできていて、われわれ大人が読む分には内容が詰まっており読みごたえがあるのですが、質問をしたであろう子どもが読むにはやや難しく、読み通すには文章量が多いとも感じます。仕事を増やすのは心苦しいのですが、可能であればもっと簡単な内容で200字程度に抑えた回答とこれまで通りのしっかりした回答と2段構えの掲示があればよいと感じまし

た。

◇ 入館者数の推移について質問なのですが、事業報告の中では前年度との比較はあるのですが、この数値の意味というか、適正值といったものが読み取れません。他の同様な性格で同規模の施設の数値が比較として記載があれば、参考にできるように感じます。資料館クラスの施設の来館者数の適正值というものがあるのならそれを知りたいと思います。また、コロナ禍以前以後の数値の推移の比較ならば、たとえば県立博物館などの人数推移をみれば文化施設としてある程度の指標を得ることができるのではないのでしょうか。学校としてもコロナを挟んでの動きはいろいろとはあるのですが、子どもたちの個別の動向についてはまだよくわかっていません。まだ少し様子を見る必要があるように感じます。ただ、中学生は以前から資料館のような施設に訪れることは少なく、自主的に足を向けさせるには相当な動機付けが必要に感じます。その点を考えるのならやはり小学生児童のほうがより関心を得やすく、今後の伸びしろにも期待ができるのではないのでしょうか。

また学校でのコロナ禍以降の状況ですが、ほぼコロナ禍以前の状態に戻っています。ただ卒業、入学式などでの生徒親族の出席には制限があるほか、他のイベントごとにも縮小傾向にあります。また大きく変わった点としては児童生徒全員にタブレットが配布され、学習に使われている点です。タブレットを利用した学習の利点はいくつかあるのですが、資料館利用という点ではタブレットで利用可能なコンテンツの拡充などが考えられるのではないのでしょうか。やはりクラスの大人数を移動させるのは教師にとっても負担であるし、また時間的制約もあります。総合学習授業の枠も近場ならともかくバスなどを使ってとなると諸々の差合いが出てきます。来館者数の増加にはつながらないかもしれませんが資料館にも考慮していただければと思います。